

情報化時代の東アジアにおける価値観・人生観

The findings about East Asian people's ethical and ontological views on life in the information era

仲田誠¹
Makoto NAKADA

¹筑波大学 University of Tsukuba

Abstract This paper shows the findings about people's views on life in the information era which we could get through analysis on the survey data done in Japan and the other Asian countries in the last few years. One of the most important findings is: people in Asia share a kind of traditional views on the ethical or ontological meanings of this life and these views are related to their views on robots, privacy or various matters in the information society.

キーワード 比較情報倫理, 日本, 東アジア, 東南アジア, ロボット倫理, 世間・運命観

1. はじめに

本年(2017年)6月5日から12日の期間、筆者(仲田)は、ベトナムで25歳~44歳の成人男女300名(インターネット利用者を対象にしたオンライン調査:年齢、人口に基づく割り当て法による)に「情報社会に関する価値観調査」を実施したが、その結果、きわめて興味深い結果が得られた。この調査は、基本的には、過去に日本や東アジア(中国、韓国など)で実施した(筆者や筆者を代表とする研究グループが)「情報社会における人々の価値観」調査の延長として行われたものであるが、その中心的な狙いは、1)当該地域における価値観、具体的には、「世間・運命観」、「公的・私的意識」、「伝統的人生観(儒教や仏教あるいは神道、武士道、伝統的美意識)」(神道、武士道あるいはくものあわれ>などの伝統的美意識は主として日本の場合)、「西洋・近代的人生観」(個人主義など)、「社会観」などの実態を調べることと、2)当該地域における人々の、「情報倫理」や「ロボット倫理」、「企業倫理」に関する意識、CMC(Computer-mediated-communication)についての利用実態・評価、各種メディアに関する評価などを含む情報社会全般に関する意識・見解を調べることであった。

「世間・運命観」とは筆者(仲田)が過去の災害観調査実施・分析の過程で「発見」(実証的な調査を通じてその実態を明らかにした=このようなある意味で非合理的で非近代的な意識の存在を実証的な調査で明らかにするということが自体が日本でははじめての企てであった=非合理・非近代的という表現・概念の意味をあらためて問う必要があるということはこの知見はわれわれに示している)した日本固有の価値観・ものの見方・感じ方のことであり(「固有」とは、多くの日本人がこの価値観に共感を示しているという意味である)、これは、もともと筆者(仲田)と故・廣井脩・前東京大学教授とが中心になって運営した東京大学・新聞研究所・「日本人の災害観」に関する研究会

の議論の中から生まれてきたものである。筆者と廣井教授は、1981年に岩手県大船渡市およびその周辺地域でこれらの問題に関する質問をおりこんだ災害観調査を実施し、「日本的災害観」を深層の部分からとらえる試みをおこなった。(文献資料のリサーチなどを通じて日本的災害観の重要性を提起し、その内容に関する仮説を提示し、さらに具体的な質問内容を提案したのは筆者である。)この調査によって、日本人の心の中に、「運命観」や「(ある種の存在論的)自然観」と結びついた「災害観」が存在するという事実が明らかになり、さらにそれが、「災害対策有効感」、「間人主義」(「間人主義」は浜口恵俊の用語)などとも連動するという実態が明らかになったのである。

またその後の関連調査で、こういった意識、価値観、ものの見方、感じ方(「世間・運命観」と筆者は呼んでいる)は、「環境問題」に関する意識・ものの見方(筆者は、三上俊治・前東洋大学教授らの調査グループと共同で「地球環境問題とメディア報道・人々の意識に関する調査」を共同で実施した)や、「プライバシー観」、「ロボット倫理」、「企業倫理」などとも関連する(相関係数などの分析で統計的に有意)ことがわかってきた。(ただし、「ロボット倫理」など時代の最先端を行く技術の産物=ロボットや人工知能=に関するものの見方と「世間・運命観」がなぜ関連するかは大きな問題として残っている。統計的には有意であっても、なぜこういった一見「異質」な問題の価値観が関連するかは、技術と文化論、倫理、存在論などさまざまな側面から考える必要がある=それは本稿を含む一連の筆者の論文における継続的な課題である。そこでは、おそらく「運命」とは何か、「偶然と必然との関係」とは何か、「間」とは何かという木村敏的な存在論と技術論の問題などがつながってくる。)

つまり、一見、古臭く、前近代的(ある意味では、「生世界 Lebenswelt」や「内的世界 In-der-Welt」、「コミュニティスcommunitas」の一つのかたちとも言える=そういった論点との関連性が重要な問題となる

う)な「世間・運命論」と現代社会に関する一連の諸問題が関連性を示すという知見が明らかになったのである。

2. 情報化の時代における東アジアの価値観

こういった点に関する説明を含めて、筆者はさらに研究を継続したが、その過程で以下のようなことがさらに明らかになってきた。

1) 「世間・運命観」的な価値観は日本だけでなく、少なくとも、中国や韓国など、東アジアの国や地域にも存在する。

東アジアにおける価値観比較（「世間・運命観」）

	2014 HG 日 本	2015 CG 中 国	2016 KG 韓 国
現代生活の中で人間はあまりにも自然からはなれ過ぎてしまっている（自然遊離）	71.2%	82.0	86.0
人間は豊かになりすぎると墮落しがちなものだ（豊かさは墮落）	80.4	76.3	67.3
人間には何らかのかたちで運命というものがある（運命論）	77.5	76.3	80.4
世の中には科学で説明できないことも数多くある（科学否定）	81.8	89.3	91.0
今の日本には自己中心的な人間が多すぎる（自己中心主義批判）	76.8	91.6	91.0
今の世の中では一人一人の人間はあまりにも無力である（無力感）	72.7	-	-
今の世の中が明るく楽しそうに見えるのは表面的な部分だけである（うわべだけの楽しさ批判）	70.0	77.6	83.0
人のためにつくせばいつかは自分にプラスとなってかえってくるものだ（誠実重視）	66.5	78.0	79.7
最近災害が多いのは人間に対する天からのある種の警告である（災害は天の警告）	59.0	80.0	75.3
誰でも、誠意をもって接すれば心が通じるものだ（誠意は通じる）	46.2	76.3	85.9
（他人の意見に頼らず自分一人の判断でことを決めた方がうまくいく（個人主義））	52.2	49.0	73.3

注1) 上の表の数字は、「共感できる（このような意見や考えに）」と「ある程度共感できる」の合計値。

注2) 2014HG 調査。福島、宮城、岩手の被災地地域在住の25～44歳男女744人を対象に2014年に実施。総務省「平成22年通信利用動向調査よりインターネット利用率」調査のデータに基づき、割り当て法で調査対象者を3県の在住者に割り当てた。2015CG。2015年9月に中国で北京、上海、広州在住25～44歳男女300人を対象に実施。調査は割り当て法で実施。割り当て法実施に際しては2010年中国政府統計「インターネット利用者」を利用した。2016KG 調査。2016年9月6日5月23日～5月31日の期間に韓国・ソウル・釜山両市在住のインターネット利用者男女300名（30～39歳）を対象に実施。割り当て法で実施。男女比地域ごとの割り当ては政府統計に基づいておこなった。

2) 「世間・運命観」的な価値観は、中国や韓国など、東アジアの国や地域にも存在するが、この「世間・運命観」的なものの見方・感じ方は、これらの国や地域でも、日本と同様、「プライバシー観」、「ロボット観」、「企業観（企業倫理）」などに関連している。

「自然からの遊離」・「清貧の思想」・「個人主義」と「ロボット倫理」の相関（2014HG 日本）

	自然からの遊離	清貧の思想	個人主義
自動化されたロボットに老人の介護をまかせることは便利なようだが、同時に、機械に世話される老人はちょっとかわいそうな気がする。	.309**	.311**	-.015
自動化されたロボット兵士を使って戦争で相手の人間を殺傷する計画があることを聞くと、なにかやりきれなさを感じる。	.275**	.312**	.014
生命をもたない地球、大地、山や川であってもそれを慈しむのは人間的な感情として当然のことだ。	.297**	.297**	.082*
生命をもたないロボットでも、作った人の心がこ	.276**	.254**	.142**

もっていることを考えると、むやみに壊したりすることには抵抗感がある。			
ペットロボットなどの心を癒すロボットは、それが機械だとわかっていても、可愛いと思えてしまう。	.229**	.221**	.095*
学習効果をあげるために、ロボットを学校で子供の教育用に使うのは、良いことだ。	.084*	.131**	.256**
小さな子供を一人で家におくよりは、監視機能などをそなえた自動化されたロボットに世話をさせる方がまだ。	.128**	.171**	.264**
鉄腕アトム最後のエピソードが地球を救うためのアトムの自己犠牲だったと知ると感動する。	.242**	.270**	.150**

注 1) **は危険率 1%水準 (両側検定)、*は同 5%水準を示す。

「自然からの遊離」・「清貧の思想」・「個人主義」と「ロボット倫理」の相関 (2015CG 中国)

	自然からの遊離	清貧の思想	個人主義
ロボットに介護をまかせることは便利なようだが、同時に介護される人の社会的孤立を強めるので問題がある。(介護批判)	.319**	.125*	.013
タマゴッチのような仮想生命体にも子供が同情や慈しみの心を感じるのは自然なことだ。(仮	.199**	.058	-.015

想生命体共感)			
ロボットが虐待されないように、ロボットに「痛い」と言わせたりして、感情の表出機能を持たせるのは大切なことだ。(ロボットの感情表出機能)	.114*	.143*	.120*
ペットロボットなどの心を癒すロボットは、ほんものの心や感情がないまがいものだ。(ロボットはまがいもの)	.104	.212**	.163**
学習効果をあげるために、ロボットを学校で子供の教育用に使うのは、良いことだ。(学校での利用肯定)	.200**	.167**	.166**
人間の死傷者が少なくてすむように、ロボットを戦場で使うのはいいことだ。(戦場でのロボット使用肯定)	.167**	.206**	.155**
ロボットに家事をさせるのは、家族の仕事へらすことになるので良いことだ。(家庭でのロボット使用肯定)	.226**	.073	-.057

注 1) **は危険率 1%水準 (両側検定)、*は同 5%水準を示す。

3) ただし、日本以外の東アジアでの調査では、「世間・運命観」を構成する「間人主義」的な対人観・集合主義的価値観は、「情実」的なものの見方も含むなど、日本とはかなり違う面も含んでいる。日本の場合、少なくとも、「情実的なものの見方」、「公私混同も受け取れるような行為への共感」などが強く支持されることはまずないし、また、これらの意識はもしあったとしても水面下に沈んだままで、これらが政治関心や企業倫理など他の価値観と強く連動するということはまずないのである。ところが、中国や韓国などでは、「世間・運命観」が、「プライバシー観」と強く連動するという知見 (日本と同様の知見) が得られるとともに、「誠意尊重」、「互酬的相互主

義」（いずれも「世間・運命観」に含まれるもの）、
「情実」的なもの、「公私混同」的なもの、「個人主義」の間に、かなり複雑な関連性があり、中国、韓国の「世間的なもの」は日本の場合より「入り組んで」いるように見えるのである（日本の調査と比較すると）。

2015CG 中国一般社会人調査（1）

	プライバシー因子1（プライバシー保護）	プライバシー因子2（プライバシーより伝統的価値・友人関係）
世間運命・因子1（現代文明批判）	.438**	.147*
世間運命・因子2（他者指向）	.122*	.380**
世間運命3（天譴・運命）	.096	.240**

注1）**は危険率 1%水準（両側検定）、*は同 5%水準を示す。

2015CG 中国一般社会人調査（2）

	自分一人の判断できめたほうがうまくいく	人につくせれば自分に返ってくる	誠意はだれにでも通じる
就職の斡旋時親しい友人優先は普通	.032	-.012	.100
お世話になったらお返しを	-.041	.101	.028
一番頼りになるのは肉親	.099	.094	.083
職場の備品を私用で使っても良い	.353**	-.063	.136*
面子や自尊心過剰は進歩の妨げ	-.027	.184**	.180**

注1）**は危険率 1%水準（両側検定）、*は同 5%水準を示す。

今回、このような既存のデータ分析を通じて得られた知見の内容をさらに検討するために調査対象地域を東南アジアにも広げ、上記1）、2）、3）の諸点についての分析を実施した。

3. ベトナム調査の結果

すでにベトナムでは調査を修了し、主要なデータの分析も済んでいる。詳しい知見の紹介は、本稿（本発表）で具体的な数字を紹介しながら説明するが、主

要な知見の概要を整理すると、以下のようになる。

(1)「世間・運命観」的なものはベトナムでも広く支持（共感）されている。

以下は、「世間・運命観」に関する質問の内容とその答えに対する回答状況を一部まとめたものだが、このように、ベトナムでも、「世間・運命観」に共感する人は多い。たとえば、「次のような意見や考えにあなたはどの程度共感できますか。それぞれについてあてはまるもの一つずつお選びください。／大きな自然災害の発生は、人間に対する天からのある種の警告である。」は、いわゆる「（災害）天譴論」と呼ばれるものだが、これについては、驚くべきことに、92.7%もの人が共感を示している。

こういった非合理的なもの、「次のような意見や考えにあなたはどの程度共感できますか。それぞれについてあてはまるもの一つずつお選びください。／どんな人とも、誠意をもって接すれば心が通じるものだ。」という質問で測られる「誠実さの指向性」が共存するのがベトナムの実態であり、これは日本のケースとほぼ同様の実態なのである（中国や韓国でも同様の知見が確認されている）。

「次のような意見や考えにあなたはどの程度共感できますか。それぞれについてあてはまるもの一つずつお選びください。／現代生活の中で人間はあまりにも自然からはなれ過ぎてしまっている。（SA）」

		回答数	%
全体		300	100.0
1	共感できない	5	1.7
2	あまり共感できない	22	7.3
3	ある程度共感できる	171	57.0
4	共感できる	102	34.0

「次のような意見や考えにあなたはどの程度共感できますか。それぞれについてあてはまるもの一つずつお選びください。／人間は豊かになりすぎると堕落しがちなものだ。（SA）」

		回答数	%
全体		300	100.0
1	共感できない	4	1.3
2	あまり共感できない	35	11.7
3	ある程度共感できる	134	44.7
4	共感できる	127	42.3

「次のような意見や考えにあなたはどの程度共感できますか。それぞれについてあてはまるもの一つずつお選びください。／大きな自然災害の発生は、人間に対する天からのある種の警告である。（SA）」

		回答数	%
全体		300	100.0
1	共感できない	1	0.3

2	あまり共感できない	21	7.0
3	ある程度共感できる	107	35.7
4	共感できる	171	57.0

(2) ベトナムでも「世間・運命観」的なものと「ロボット倫理」、「情報倫理」との関連性は日本と同じようなかたちで見られた。以下、このことを示す表である。「ものあわれ」的なものの見方は、日本では「世間・運命観」的なものと強い関連性を示し、さらにこれが「ロボット倫理」、「情報倫理」とつながるといふ「意味の連鎖」、「共感の連鎖」といったものが（日本では）見られるが、これはベトナムでも同様であった。昨年、ホーチミン市師範大学の日本語科の教員や学生に筆者がプレゼンテーションした時に、「<ものあわれ>とは何のことかわからない」という声が多かったが、今回の調査では、予想以上に、ベトナムでも「ものあわれ」的なものの見方に共感を示す人の割合は多かった。さらに、今回の調査では、以下のように、「ものあわれ」的なものの見方が「ロボット倫理」と関連するという日本と同様の知見が得られている。

「ものあわれ」とロボット倫理の相関（2017VG ベトナム調査）

		ロボット 1（ロボットへの共感、人間的近さに関する意見）	ロボット 2（ロボットの社会での使用に関する意見）
ものあわれ・被害者に共感	Pearsonの相関係数	.335**	.311**
	有意確率（両側）	.000	.000
	N	300	300

注1) **は危険率 1%水準（両側検定）、*は同 5%水準を示す。

参考文献

- 1)Capurro, Rafael 2006 “Towards an Ontological Foundation of Information Ethics,” *Ethics and Information Technology*, 8 (4), pp. 157-186.
- 2)Leander, Kahney 2006 “The New Pet Craze: Robovacs”, *Wired*(online). Available from <http://archive.wired.com/science/discoveries/news/2003/06/59249?currentPage=all>. [cited 6 December,2015]. This report was published on 16 June, 2003.
- 3)Nakada, Makoto 2006a “Privacy and *Seken* in Japanese information society: Privacy within *Seken* as old and indigenous world of meaning in Japan,” in F. Sudweeks, H. Hrachovec and C. Ess (eds.), *Cultural Attitudes towards Technology and*

Communication 2006, Perth: Murdoch University, pp.564 -579.

4)Nakada, Makoto 2006b “The Internet within *Seken* as old and indigenous world of meanings in Japan,” in R. Capurro, J. Fruebauer and T. Hausmanninger (eds.), *Localizing the Internet*, Munich, Fink Verlag.

5)Nakada, M., Tamura, T., Tkach-Kawasaki, L. et al. 2004 “Does Old Japan Determine New Japan? :The Relationship between *Seken*, the Internet, and Political Consciousness in Japan,” in F. Sudweeks and C. Ess (eds.). *Fourth International conference on cultural attitudes towards technology and communication 2004*, Murdoch University, Australia, pp.143-157.

6)Nakada, M. and Tamura, T. 2005 “Japanese conceptions of privacy: An intercultural perspective,” *Ethics and Information Technology*, 7(1), pp.27-36.

7)Turkle, Sherry 2007 “Authenticity in the age of digital Companions,” *Interaction Studies*, 8:3 (2007), pp.501-517.